



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第17号

2022年  
1月19日

新年あいさつ

## 安全登山を地道に目指す一年に

公益社団法人日本山岳会 群馬支部長 根井 康雄

北原秀介前支部長からバトンを引き継いで、初めての新年を迎えました。あらためてご冥福をお祈りするとともに、前支部長の支部に寄せた思いを会員皆様とともに胸に刻みたいと思います。それは安全に和気あいあいと登るという北原さんの思いです。

ここ数年、会員拡大と並行するように支部山行、個人山行とも活発な状態が続いています。少しずつですが、山行の幅も広がり、レベルも高まり、支部会員の山の楽しみ方も豊かになり、和気あいあいとした支部内の親睦・交流も深まってきていると思います。それはたいへん素晴らしいことです。しかし、その一方で、安全登山については本当に万全でしょうか。支部としての遭難対策、教育訓練、登山計画のチェック、そして会員一人一人の安全への意識と登山スキルはどうでしょうか。登山計画書の提出はルール化されていますが、まだまだ徹底しきれていないとは言えません。また提出された計画書のチェック体制はどうでしょうか。

登山のリスクを一人一人がしっかりと認識すること、そして、支部として支部会員への適切な情報提供や登山計画書のチェック体制を充実させていくことが必要です。それには一方通行の押し付けやチェックではなく、一人一人の登山技術と知識の充実にフィードバックしていけるようなコミュニケーションづくりも大切です。またリーダー層を育てていくことは、支部の土台となる層の厚さ、幅の広がりによって直接的に結びついていきますし、支部山行や公募山行の安全・安心を確かなものとするためにも絶対に必要です。

このような地道な営みを通して安全登山の基礎を固めることこそが、会員の親睦・交流をさらに深め、山をより楽しむための一番の近道と考えます。この一年を安全登山の足元をしっかりと踏み固めるステップにすべく、会員みなさまのご理解とご協力をお願いし、新年のあいさつとさせていただきます。



# 尾瀬合宿2021

10月2日(土)・3日(日)

群馬支部恒例となった秋の尾瀬合宿。台風の接近で午前中の雨は覚悟していたが、それほど影響もなくまずまずの天気となった。紅葉は例年より少し遅めのようだ。7:30鳩待峠に山仲間が集まった。今回は、本部より柏理事、千葉支部より松田支部長、三田事務局長、小山さん、笠原さんも加わり、総勢23人の参加となり、今まで以上の充実した内容となった。

今年度のコースは、アヤマ平コースと至仏山コースの2コースに分かれての山行となった。私が参加したのは、至仏山コース。前田さん、戸塚さん、田村さん、星野さんと一緒に至仏山山頂を目指した。鳩待峠から小至仏山→至仏山をピストンするオーソドックスなコースである。雨は降っていないが霧や雲の動きは速く、尾瀬ヶ原やアヤマ平、燧ヶ岳が見えたり、隠れたりを繰り返していた。10:15小至仏



笠ヶ岳を望む

山では一瞬霧が晴れ、思わず「おー」と声を上げシャッターを切る。目指す至仏山が目の前



至仏山の稜線



至仏山頂

に現れた。水上方面からの冷たい風、つるつる滑る蛇紋岩にてこずりながらも、みんな元気に無事登頂。山頂では、残念ながら奥利根や新潟・福島方面の奥深い山並みを望むことはできなかったが、風も弱まり笑顔で記念撮影。昼食をとった後、軽快に來た道を戻る。徐々に天気は回復し14:30の鳩待峠は、太陽が顔を出し暖かな日差しが降り注いでいた。そして夕方には、アヤマ平班も含め、参加者全員が笑顔でロッジ長蔵に集合した。

今回、初めて会った人、久しぶりに会った人、今日の山行について、尾瀬の話、最近登った山、今後登りたい山、山の思い出話、山の現状など、山を共通点にした活発な交流会となった。私は、松田宏也さん(千葉支部長)の隣の席に座った。松田さんとは、以前、栃木支部主催のスプリングミーティングで谷川山麓の虹芝寮にご一緒したことがあった。山の厳しい話というより、柔らかいライトなネタで終始テーブルは和やかな雰囲気にも包まれた。今度は千葉に行くことを約束した。八木原さんからは、群馬県の山を取り巻く関係の話を知った。様々なことを経て今の状況があることを改めて知ることができた。そして、群馬の山の環境をより良くしていきたいという思いが強くなった。また、尾瀬を知り尽くしているロッジ長蔵のスケさんの話に、みな興味をもって耳を傾けた。毎年、尾瀬合宿でスケさんと会い、元気を確認し合っている。私の方が活力をいただいている。



鳩待峠

ロッジ長蔵での交流



今年もこうして尾瀬合宿が開催できたのも、ロッジ長蔵の平野顧問をはじめ、スタッフの皆さんのお陰であり、心から感謝します。コロナ対策として、マスク着用、こまめな手指消毒、各部屋の人数を減らしたり、座席の位置を離したり、できる限りの対策を実施。参加者全員の協力もいただきながらの楽しい尾瀬合宿となった。(田中 規王)

## 尾瀬合宿 アヤメ平

10月2日(土)アヤメ平に参加しました。台風一過で、天気が回復することを願いながら、7時50分に14人のパーティーで鳩待峠を出発。昨日の雨が残って滑りやすい木道を慎重に進みます。途中、木暮さんが植物の解説をしてくれるタイミングを楽しみに歩きました。葉がほとんど落ちたツリバナの朱色の果皮が、吊るし雛のようで可愛くて、何度も足

を止めて写真を撮りました。この頃はまだ曇り空で、振りかえって、雲の切れ間から見える至仏山の山容に歓声を上げていました。

横田代に着く頃には、霧雨になりカッパを着用。写真が白黒で残念ですが、参加女性のカッパがほとんどブルーで、まるで支部でそろえたようで「チームブルー」と名付けたいようでした。

アヤメ平では、黄葉や池塘が楽しめましたが、燧ヶ岳には雲がかかっていました。

入会したばかりで、今回が2度目の支部山行です。入会の目的が、「尾瀬に行きたいから」だった私にとっては、やや残念な天気での尾瀬となりました。ですが今は、これからの支部山行に参加し、山の知識や体力を身に付けることによって、来年の尾瀬合宿がより楽しめる!!と考えています。



富士見峠で記念撮影

(中村由佳理)

## 尾瀬合宿に参加して

房総Baseをオープンした6月に根井支部長が見学に来たのがキッカケで10月の尾瀬合宿での再会となった。尾瀬は私のお気に入りでありここ3年ほど毎年通っている。尾瀬ヶ原から春と夏の燧、春の至仏、そして今回の秋のアヤメ平。大先輩の八木原さんも一緒に紅葉の樹木の説明を受けなが



アヤメ平にて

らのんびりと木道をたどりアヤメ平の湿原に着くと、赤城山、日光白根山が見えてきた。気持ちの良い汗を

かいた後は、いざロッジ長蔵へ。紀子さん・スケさんの歓待を受け美味しい料理と地酒に舌つづみ。歓談を楽しみ、大いに食べて飲むのが尾瀬合宿の最大の目的だ。

ところで千葉支部のHP全面リニューアルがスムーズに立ち上げられたのは最新の群馬HPという良いお手本があったからだ。群馬支部はHPでも山でも兄貴分、千葉支部は弟分となり、今後は互いの山行に相互乗り入れをしながら交流をもっと深めようということになった。千葉支部にとっては群馬は山の宝庫、交流を通じて人と山の世界が広がるキッカケになればうれしい限りだ。冬は千葉の山のシーズンの始まりだ。次の合宿は雪のない千葉房総の落葉踏みの冬山歩きで一緒したい。今から房総Baseでの再会が楽しみだ。

(千葉支部 松田 宏也)

# 山行報告

## 北横岳山行

9月19日(土) 麦草峠～茶臼山～縞枯山～北横岳～三ツ岳～雨池山を縦走。6時55分麦草峠を出発。

鬱蒼とした森林帯、苔生した木々、そしてシラビソの甘い香りを深く吸い込む。徐々に標高をあげ茶臼山～縞枯山へ。展望台では、雲海に覆われた山々を望めた。雨池峠からは快晴の青空の下、ロープウェイ山頂駅まで気持ちの良い木道歩き。溶岩の広がる坪庭散策路を経由し、北横岳南峰・北峰着。

蓼科山をはじめ、北アルプス、中央アルプス、南アルプスと雄大な景色に魅了された。先輩方に見える山々を教えていただき、槍ヶ岳、穂高連峰、御嶽山、恵那山、鳳凰三山などなど日本百名山10座は確認することができた。食事をとり贅沢なひとときを過ごし、三ツ岳～雨池山へ。岩稜帯とゴツゴツとした大岩が続き、足を踏み外さないように緊張感をもって進む。こういう岩場も楽しい。

そして雨池を周回。池に映る木々と雲は水彩画の



南八ヶ岳(左)と南アルプス

ようにきれいだった。16時30分麦草峠に到着。今回は快晴の中、変化に富んだ縦走を十分に楽しむことができた。

(星野 弘美)

## 岩場が楽しい「立岩」

山行日 2021年11月6日 晴れ  
コースタイム 線ヶ滝駐車場(8:20)→(9:52)立岩山頂→(11:00)イヌムキ不動→(12:00)線ヶ滝駐車場

南牧村の立岩は「西上州のドロミテ」ですっかり有名だ。ガイド本で見かけることも多く、以前から行ってみたいと思っていたので、お邪魔かと思いつつも参加させてもらうことにした。

線ヶ滝の車道終点の駐車場が登山口。最初は植林の中の急登、汗をかきながら登っていきと突然巨大な岩場が出てくる。先頭の田中リーダーはJバンドと呼ばれる側壁をスルスルと登っていく。その後を、鎖を掴みながら登るがなかなかの高度感。途中、見晴らし台のような小ピークに寄っていく。その後も鎖やらロープがある岩場とヤセ尾根で飽きることが

無い。

出発から1時間半で立岩山頂に到着、ベンチでおやつ補給した。西上州の山が見渡せるのだが、よく分からない。いったんコルに下って、紅葉を楽しみつつ



立岩の岩稜

まったりとしていたら、再度岩の壁が立ち塞がる。巻道も無く、ここは登らないと帰れない。群馬支部の方は一人ずつさっさと上がっていく。さすが山慣れしている人ばかりと感心した。分岐を下って、少し荒れた感じのイヌムキ不動に寄り、正午には駐車場に到着。短時間でスリルも楽しめる良い山でした。

(千葉支部 三田 博)

## 出羽三山 一会心の山旅一

山行委員会の支部山行にはすっかりご無沙汰で、このごろは晴れの日会にばかり参加している。今回の出羽三山もまた晴れの日会の企画である。川の畔や峠、旧跡をたどりながら歩くのが楽しくなったのである。決して足が萎えたわけではない。

計画は10月5～7日の2泊3日。まず、平安中期創建の国宝五重塔をめながら修験の聖地・羽黒山を訪ね、宿坊に泊まり精進料理をいただく。翌日は俳聖芭蕉が「雲の峰幾つ崩れて月の山」の句を残した今回のメイン月山を満喫する。中日はさらに『日本ほろ宿紀行』に掲載された大正ロマンたっぷりの「最上屋旅館」(夕食は酒肴のとびきりおいしい地元別の店を予約)に泊まるため、日本海の酒田市まで遠征。最終日は「語るなかれ聞くなかれ」の霊場・湯殿山に足を踏み入れ、その余勢を駆って山寺も参拝しようというもの。肝心の山は標高の高い月山でさえ1984m。湯殿山で1500m、羽黒山に至っては418m。いずれも晴れの日会向けの山々である。もちろん紅葉情報は見ごろ。

晴れの日会、会心の計画には7人が参加。平均年齢は優に70歳を超えた。紙面の都合で結論しか言えないが山、宿、史跡、酒、味、景観、人気(じんき)、突然の計画変更、ハプニング……どれをとっても満点の山旅であった。車2台に分乗、走行距離は1100km弱。私事を付け加えれば、月山は好きな山ベスト10上位にスルスルと入ってきてしまった。



3日間の山旅はここから始まった。羽黒山・出羽神社の国宝・五重塔の前で。

(宮川 勉)

## 12月月例山行 裏妙義

このところ人気の妙義山。特に登られているのが表妙義の白雲山、金洞山と星穴岳。裏妙義では丁須岩だ。ちなみに妙義湖がある中木川の東が表、西が裏妙義となる。人気の秘密は鎖場が多くスリルが味わえ、眺めがよい事だろう。秋の紅葉時は多くのガイドがお客さんを連れてきている。



赤岩のトラバース

紅葉が終わった12月なら少しは人が減ると目論んで丁須の頭へ。ルートは籠沢から丁須の頭、赤岩、烏帽子岩と縦走して三方境に出てから国民宿舎跡へ帰る周回ルート。一番人気のコースだろう。

7時20分出発、植林の道を抜けると沢が集中する木戸に着く。ここから落葉で分かりにくいルートを読みながら進む。沢の最後の丁須岩直下は鎖場。縦走路に出てからも鎖場が続き9時到着。天気が良く眺めがよい。



丁須の頭

ここから稜線の縦走路。ここからも鎖場が続く。最初にきつい傾斜のチムニー下り。ヘルメットとハーネスが役に立つ。赤岩のトラバースを超え、七人星の奇岩を見て烏帽子岩を巻いていくと絶景ポイントに到着。浅間が綺麗に見える。12時三方境に到着。ここから山腹を緩やかに下るトラバース。13時30分国民宿舎跡に帰る。

楽しい登山であったが、妙義はたくさんの遭難が起きている山だ。登るときは慎重に！

(佐藤 光由)

## NEWS

### 【速報・短信】

#### ぐんま山フェスタ

昨年は新型コロナウイルス感染拡大のため、実開催は中止でWEB開催となった「ぐんま山フェスタ」ですが、今年は11月14日に2年ぶりに開催されました。2014年に始まり、1回の中断をはさんで今回で7回目となります。

主催はぐんま山フェスタ実行委員会で、日本山岳会群馬支部は群馬県山岳連盟(岳連)、群馬県勤労者山岳連盟(労山)とともに前回までと同じ共催として参画しました。県庁県民ホールでの2日間の開催から高崎市問屋町のビエント高崎エクセルホールでの1日だけの縮小開催となりました。



中央が群馬支部のブース。手前は労山、クライミングボード手前が岳連

天気にも恵まれ1200人が会場を訪れ、オープンと同時に山に興味を持つ中高年や若者、家族連れなどが大勢訪れていました。

群馬支部ではクライミングボードが人気を博した岳連、豊富な資料を展示した労山と並んでブース出展し、資料の配布や書籍、ウェストン祭の記念品の販売などを行いました。10数人を越える支部会員が駆け付け、スタッフとして協力しました。また、太田市の本暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会の服部会長、浅海事務局長らにも来場いただき、同会の協力による日本山岳会第3代会長の登山家・本暮理太郎関係のパネル展示を行い、来場者の注目を集めました。

「ぐんま山フェスタ」は来年も開催予定です。今年は

コロナ禍で、初冬にずれ込んでの1日だけの縮小開催となりましたが、来年はぜひ夏山シーズンにあわせた本格開催を期待したいと思います。その際はスタッフとしての参加、知り合いを連れての来場、PRなど、支部会員のご協力をよろしくお願いします。

#### 古道調査

日本山岳会創立120周年記念事業の全国山岳古道調査が、全国各支部で行われています。6月には調査に先立つパイロット調査が本部と群馬支部の合同で赤城山において行われ、この時の調査手法やアウトプットが全国的調査の基本となっています。

全国から120の古道が最終的に選ばれる予定ですが、第1次調査対象として、群馬県内では赤城、榛名の参詣道のほか、上州から越後への道、沼田会津街道が選ばれています。さらに年内にも全調査対象が選定される見込みです。群馬支部では、初年度の調査対象として、赤城、榛名を取り上げ、支部内に立ち上げたプロジェクトチームを赤城班(小池班長)、榛名班(荒木班長)に再編成し、調査に取り組んでいます。

調査と並行して、関係市町村や管轄する森林管理署への協力要請や届け出、地元の郷土史家などの有識者への取材も行っています。11月16日には山本龍前橋市長を訪ね、古道調査への全面的な理解を示していただきました。また高崎市では商工観光部長、榛名、箕郷、倉測の各支所長を訪ね、協力要請を行い、特に榛名支所長は根井支所長とは仕事上での旧知の仲という偶然もあり、打ち解けた雰囲気です今後の調査について懇談することができました。

古道調査は2025年(日本山岳会創立120周年の年)にかけて行う遠大な調査です。支部の力を結集し、さらに外部の人脈ともつなげ、後世へ残す一大山岳文化事業として、やり遂げなくてはなりません。調査への参加、文献調査等への協力など、皆さまの協力が不可欠です。ぜひよろしくお願いします。

### 群馬の藪山 ⑬

中山 達也

#### 【品塩山】(1282m)

2014年1月中旬 2.5万回 浜平

打田鉄一氏の「藪岩魂」に紹介され、ネット記事も多い。最新の情報はそちら。

国道299号上野村橋原郵便局前を左折し、ぶどう峠への県道125号に入る。

4.9kmほど走ると左側に「安曇野幹線2号線207号に至る」杭がある。見逃さないよう注意。駐車スペースは10mほど先の路肩に1台分。

巡視路は日向沢の対岸にあるが橋はない。長靴で渡り登山靴に履き替え木の陰に置いた。

稜線まで踏み跡は薄い。巡視路杭をたどれば良い。208号鉄塔下に出て稜線。

1121m峰で合流する破線の道は廃道。1204m峰は岩峰で右(西)から回り込み、急なザレを下る。このザレから北峰への登りが急降下、急登が続く。

瘦尾根を行くと北峰に出る。更に大岩を右から巻き、巡視路杭の先、わずかに急登すると南峰。

ここも何もない。少し先に北側が開けた展望地がある。

帰り、1204m峰手前で北西の尾根に入ってしまった。ここと1121m峰から北東に延びる尾根付近、要注意。

1204m峰から北東に延びる尾根は歩かれている。これを使いシオジの湯に出ても良い。



(注) 記述は登った当時のもので現状は分かりません。地図、コンパス(GPS)必須。

## 事務局だより

### 【主な活動・事業・イベント】…………… (2021年11月)

- 支部山行(11/6 西上州 立岩)
- 山行委員会 自然保護委員会(11/11 前橋 中央公民館)
- 山フェスタ(11/14 高崎 ビエント高崎)
- 古道調査 前橋市長表敬訪問(11/16 前橋 前橋市役所)
- 支部例会(11/17 前橋 中央公民館)
- 支部報16号発行(11/17)
- 古道調査 高崎市表敬訪問(11/19 高崎 商工観光部 榛名支所 箕郷支所)
- 健康登山塾2(11/20 沼田 戸神山)
- 古道調査 高崎市表敬訪問(11/25 高崎 倉淵支所)
- 〈12月〉
- 総務委員会(12/1 前橋 中央公民館)
- 晩餐会ウィーク(12/3~ Web)
- 支部山行(12/4 妙義 裏妙義縦走)
- 支部役員会(12/15 前橋 中央公民館)
- 健康登山塾3(12/18 前橋 群馬県庁)
- 谷川岳雪上訓練(雪山学塾)(12/18~19 みなかみ町 谷川岳周辺)

### 【今後の主な予定】…………… (2022年1月)

- 支部山行(1/1 赤城 長七郎山)

- 新年例会(1/19 前橋 ら・フォンテーヌ)
- 健康登山塾4(1/23 赤城)
- 千葉支部 雪山合宿(1/29~30 嬬恋村 高峰高原)
- 〈2月〉
- 支部山行(2/5 八王子丘陵)
- 日本山岳会登山教室指導者養成講習会(2/11~ 長野県小諸 安藤百福センター)
- 支部役員会(2/16)
- 健康登山塾5(2/19 八王子丘陵)
- 岳連雪崩レスキュー講習会(2/19~20)
- 〈3月〉
- 支部例会(3/16)
- 〈4月〉
- 支部役員会(4/20)
- 〈5月〉
- 支部総会(5/18)

### 【新入会員】…………… 小屋原 玲 浦野有紀子

### 日本山岳会群馬支部報 第17号 2022年1月19日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部  
 〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方)  
<http://jac.or.jp/gunma/>  
 発行者：根井 康雄 編集者：小池 千秋・萩原 哲  
 印刷：上武印刷株式会社